歴史学
history

考古・先史学
archeology

社会学
sociology

沖縄国際大学　総合文化学部

社会文化学科

学 科 紹 介

2023

平和学
peace studies

人類学
anthropology

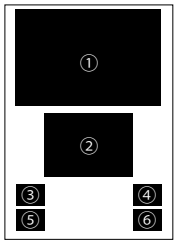
民俗学
folklore

「沖縄」の歴史・文化・社会を総合的に学び、

沖縄・日本・アジアの未来を拓く

目　次
ble of contents

学科長メッセージ …… 1
学科の特徴とポリシー …… 2
社会文化学科での学び …… 3
注目の科目 …… 4
フィールドワーク …… 5
さまざまな正課外活動 …… 6
徹底した少人数教育・演習…… 7
専任教員紹介 …… 7
在学生紹介 …… 12
卒業後の進路・就職先…… 13
OB＆OGからのメッセージ …… 14



表紙写真
①東村でのミニフィールドワークの様子
②今帰仁城跡遺跡見学会
③沖縄戦における米軍の対空砲火
④沖縄の伝統行事那覇ハーリー
⑤ヘリ墜落事故で被害を受けた本学本館
⑥首里城正殿

学科長メッセージ　Message

「沖縄」の歴史・文化・社会を総合的に学び、そしてアジアや世界へ発信／発進する！

皆さんは「沖縄」について、何をどれだけ知っていますか？

沖縄にはじめてたどり着いた人類はどのような人びとだったのでしょうか。琉球王国は、周辺の国家や地域といかなる関係を結んだのでしょうか。

琉球・沖縄の伝統文化はどのような歴史や社会的背景のもとに形成されたのでしょうか。沖縄戦や米軍統治は、現代沖縄の社会や文化にいかなる影響を与えているのでしょうか。

2022年は日本復帰50年ですが、歴史・文化・社会を見つめ直すことで、今日を認識し、未来を展望することができると思います。

私たちの社会文化学科では、「沖縄」を総合的に学びます。具体的には、考古学や歴史学、民俗学や人類学、そして社会学や平和学といった学問領域の授業を通じて、様々な視点から沖縄を深く考えます。そのうえで、将来の沖縄・日本を担い、アジアや世界に発信／発進することのできる人材の育成に励んでいます。

学科長　**深澤　秋人**

現代の沖縄・日本に必要な人材とは?

- フィールド（現場）を知っている人材
- 歴史を踏まえて現代社会を分析できる人材
- 沖縄・日本を理解し、アジアを知る人材
- グローバルな視野から現場を理解できる人材
- 十分なコミュニケーション能力をもつ人材
- 内外に発信（発進）する語学力のある人材
- 問題に気づき、解決へ向けて取り組める人材

社会文化学科は、沖縄を総合的に考え、アジア・世界のなかの沖縄・日本を担う人材を育成します!!

沖縄の社会・文化を知り尽くしたスペシャリスト
現場を重視するフィールドワーク
人類社会・文化に対する幅広い理解
沖縄からアジア・世界へ広げる国際的視野
実践的英語・異文化理解能力
４年一貫ゼミによる少人数教育
問題発見と、解決策の検討・実践

学科の魅力と特徴

“沖縄”を学際的に学び・考え・行動する学科です。
沖縄をとりまくアジア・世界の文化や社会、歴史と今を知り、比較文化という観点を踏まえながら“沖縄”を学んでいきます。
学生自らフィールド（現場）に出て、沖縄を生きる・生きた“人間”とつながることで、“沖縄”の歴史・文化・社会を理解し、未来を切り拓く人材を育成します。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

求める入学者像

社会文化学科は、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

① 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物。
② 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
③ 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
④ 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
⑤ 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

社会文化学科での学び

社会文化学科はカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに基づき、
学生に様々な学びを提供しています

カリキュラム・ポリシー Curriculum Policy

提供カリキュラムの構成

- 基礎的知識を習得する「導入科目」
- 専門分野の基礎を理解する「基礎科目」
- 分野毎の諸テーマを掘り下げる「発展科目」
- 語学力＆比較文化のための「異文化理解科目」
- フィールドワークと地域理解の「実習科目」
- 卒業論文作成を目的とする「演習科目」
- 様々な他者との交流のための「正課外教育」

ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

本学科卒業者に求められるもの

- 比較文化的観点への理解
- フィールドワーク能力
- 沖縄および周辺地域の研究能力
- 地域理解能力
- 社会的コミュニケーション能力
- 問題解決へ取り組む能力

あなたが学ぶべき分野は?

社会・平和領域
- □ 基地問題に関心がある
- □ 平和・戦争問題を考えたい
- □ 女性・家族・民族問題を学ぶ
- □ 教育・労働・メディアを考える
- □ より良い社会・世界を構想する

民俗・人類学領域
- □ 沖縄の民俗文化に興味がある
- □ 沖縄の文化をアピールしたい
- □ アジアとの関係に興味がある
- □ アジアと沖縄を比較したい
- □ 世界の中の沖縄を考えたい

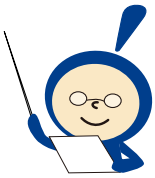
歴史学領域
- □ 琉球王国に興味がある
- □ 琉球・沖縄史全般を学びたい
- □ 沖縄の近現代史に興味がある
- □ 歴史から現代を考えたい
- □ 歴史学の考え方を学びたい

考古・先史学領域
- □ 考古学にロマンを感じる
- □ 先史時代に関心がある
- □ 遺跡、発掘作業に興味がある
- □ 遺物の保存方法を知りたい
- □ 資料館・博物館が好き

1年生の履修パターン

	月	火	水	木	金
1限		英語Ⅰ		人文地理学概論	英語Ⅰ
2限					沖縄社会入門
3限	中国語Ⅰ	沖縄文化入門	フレッシュマンセミナー	中国語Ⅰ	
4限	情報処理基礎		琉球・沖縄史入門		
5限		教職研究Ⅰ			

琉球・沖縄史入門



皆さんは「琉球・沖縄史」についてどれだけ知っているでしょうか

日本史や世界史は高校までの授業で習ってきたけれど、沖縄の歴史についてはほとんど知らないというのが実情ではないでしょうか。この講義は、考古学および歴史学の４名の教員がオムニバス形式で担当します。沖縄の先史古代から琉球王国の成立、薩摩の琉球侵攻によって始まる近世、さらに琉球処分・沖縄戦・米軍統治・復帰後に至る近現代までの枠組みの中から、様々なトピックを取り上げて紹介します。琉球・沖縄の独自性や特質性を理解するとともに、その見方、考え方を学んでもらう内容で、沖縄の歴史文化の広がりと深さの一端を知ることのできる授業だと言えます。

沖縄文化入門

皆さんが「沖縄文化」という言葉でイメージするのは、どんなものでしょうか？

エイサー？ チャンプルー？ シーサー？ あるいは赤瓦の家並みや亀甲墓、それともハーリーや海人（うみんちゅ）たちでしょうか？　この講義はそれら全てを視野に入れ、大学で沖縄文化を専門的な視野から考えていくための下地作りを目指しています。ポイントはここで言う「文化」が、「ありきたりな庶民の文化」であることです。そしてそれは、この島々の人々が「国」を作り、中国、日本、朝鮮、東南アジア、米国と関係を築くなかで、生み出されてきたものです。沖縄に暮らしてきた人々が作り出してきた生活文化を一緒に考えていきましょう。

沖縄社会入門

皆さんの日々の生活の舞台である沖縄社会を「知る」ことは、社会文化学科における学びの第一歩です

ただし「知る」ということは、単に情報を得るという意味ではありません。これまで見落としていたこと、興味を持たずに素通りしていたことに気づくためには、社会を見る視点を「知る」ことがとても大切です。どのようにしてその社会がつくられてきたのか、それがどのような仕組みによって成り立っているのか、知的好奇心を持って考えてほしいと思います。この講義では、そのときに役立つであろう視点を、現在の沖縄社会にまつわるいくつかのトピックとともに紹介します。

社会調査法Ⅰ・Ⅱ

社会・文化・歴史を知り、考え、伝えるための「方法」を学びます

社会調査とは、社会を理解するために人間行動に関するデータ（情報）を収集し、データを分析して記述・説明、その結果を公表する一連の過程です。社会調査の目的・意義と歴史、調査倫理、調査の種類と実例、量的・質的調査の紹介をへて、調査の企画・設計、仮説構成、調査票・インタビューガイドの作成、対象者の選定、サンプリング法、資料・データの収集と分析、報告書作成まで、社会調査の全過程を学習します。新聞社や放送局、行政や企業、教育や NGO ／ NPO の調査部門で必要とされる社会調査士資格（社会調査の基礎能力を有する専門家）の認定科目です。

外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ

この演習は、２年次を対象とした必修科目です

社会文化学科は「沖縄を徹底的に学ぶ」ことをカリキュラムの根本に据えていますが、世界的な視野で「沖縄をより深く学ぶ」ためには、日本語の文献はもとより、外国語文献の読解能力も必要になってきます。演習では、学生が所属する領域演習に応じて、それぞれの分野と関連した外国語文献（主に英語）の専門用語を学び、最終的には外国語専門資料を正確に読みこなす能力の獲得を目指します。グローバル化が進む 21 世紀において、国内外に「沖縄」を発信していくためにも、会話能力はもちろんのこと、外国語文献読解力もまた必須スキルなのです。

現場から「沖縄」を探求する

フィールドワーク

社会文化学科では３年次になると、７つの専門ゼミ（考古・先史学、歴史学〔前近代〕、歴史学〔近現代〕、民俗学、人類学、社会学、平和学）から、各自の興味関心にもとづいて１つのゼミを選び、より専門的な研究活動を行っていきます。

各ゼミでは、毎年、テーマを決めてフィールドワーク（現地調査）を行い、それぞれの専門分野に基づいて沖縄への理解を深めます。フィールド（現場）を重視する学科、社会文化学科の最も重要な学びのプロセスです。

社会学ゼミ

「移民からみえる沖縄」をテーマに、第5回世界ウチナーンチュ大会に参加しました（那覇セルラースタジアムにて）

平和学ゼミ

首里城地下にある第32軍司令部壕の戦跡フィールドワークを行いました。沖縄戦後史や米軍基地についても学べるゼミです。

歴史学ゼミ（前近代）

３年次の「実習」では、沖縄県公文書館で稽古案文集（同館岸秋正文庫蔵）の閲覧と調査を行い、くずし字の判読と候文の読み下しに取り組みました。

人類学ゼミ

石垣島でのフィールドワークの風景です。島南東部の白保集落で、①概要・観光、②旧盆・祖先祭祀、③獅子舞・アンガマの３つの班に分かれ、夏休みに１週間の調査を実施しました。

民俗学ゼミ

恩納村の万座毛周辺の集落でフィールドワークを行いました。観光開発の進む一方で、地域で営まれてきた生活文化とその変化を調査しました。

歴史学ゼミ（近現代）

今年度は、宜野湾市史と連携して戦後の学校教育の復興について調査するため、宜野湾市内各地をめぐります。

海外研修（＠台湾）

人類学ゼミでは、台北の史跡・文化施設・大学などを訪問する海外研修を実施しています。写真は、沖縄との比較を念頭に訪問した台北市孔子廟の大成殿です。

考古・先史学ゼミ

金武町にある鍾乳洞遺跡の発掘調査を行いました。今から700年前のグスク時代の土器や陶磁器を発掘しました。

社会文化学科では行動力や問題解決能力、コミュニケーション能力を磨くため、
通常の修学カリキュラムのほかにも、様々な活動を学生主導で行っています

社会文化学科 接続教育プログラム

学科での学びや学生生活を不安なく始められるように、社会文化学科は多様で丁寧な支援を実施します。

これまで社会文化学科では、初年次教育として、東村の本学セミナーハウスでの 1 泊 2 日の MT（Membership Training）を実施してきました。MT とは、入学したての 1 年生を対象とした宿泊研修です。その主な目的は、1 年生同士が交流を深めること、学科教員はもとよりリーダー役の 2 年生との繋がりを築き、充実した学生生活の第一歩を踏み出すことです。社会文化学科では、2002 年に沖縄国際大学で初となる MT を企画し、その後も毎年春に MT を開催してきました。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、MT が実施できなくなりました。そこで社会文化学科では、1 年生が学科での学びに早く慣れ、同学年生、上級生、教員などとの人間的な関係を早めに構築できるようにすることを目指した新たなプログラムを検討し、2021 年春より実施することになりました。

具体的には、入学前オリエンテーションにおいて、「with コロナ」時代の大学での学びについて理解を深めるとともに、感染予防策を徹底した上で、学内フィールドワークを実施しました。学内フィールドワークでは、本学科独自のサークルである「スマイライフ」の学生が主導し、2004 年の米軍機墜落現場の跡地「ポケットパーク」から、普天間基地が見える 5 号館の階段を巡り、身近な基地問題について議論しました。また、2021 年度からは、専門ゼミ担当の教員が中心となり、上級生も交えた複数のミニ・フィールドワークを実施しています。1 年生が多種多様な現場での学びを体験することができるよう、新たな企画を検討しています。

SmiLife 学科内サークルスマイライフ

沖縄理解を深め、修学旅行生などへの平和ガイドを行う

スマイライフは社会文化学科の学生で構成されるサークルです。講義で学んだことを生かし、修学旅行生などを対象に、沖縄についてのガイドを行っています。

徹底した少人数教育・演習

演習（ゼミ）とは、少人数による実習やディスカッションによる授業の形式です。他のゼミ生の意見に耳を傾けながら議論を深め、自分の考えを練り上げていく力を鍛えていきます。

社会文化学科では入学から卒業まで全ての学年でゼミ教育を徹底し、学生の一人一人を指導・支援しています。

学問の基礎を広く浅く学ぶことから始め、段階を追って自分で選んだ専門領域を深く狭く学んでいくカリキュラム構成をとっています。これらの経験の積み重ねから、卒業論文の執筆という大きなゴールへとつなげていきます。

3 年生に進級すると、それぞれのゼミで実習を行います。沖縄県内外の地域社会や公文書館などに赴き、現場からの学びに挑戦します。

4年生 演習Ⅱ（4年ゼミ）
卒業論文は、「沖縄を総合的に学ぶ」社会文化学科での４年間の学びの集大成です。各自がテーマを設定し、専門分野における知識と方法論に基づき、卒業論文を仕上げ、その内容を社会に発信します。

実習
フィールドワーク（実習）を通じて、専門分野における調査・研究能力を向上させ、地域理解能力を育成します。

3年生 演習Ⅰ（3年ゼミ）
考古・先史学、歴史学（前近代）、歴史学（近現代）、民俗学、人類学、社会学、平和学の各専門ゼミに分かれ、領域演習で培った知識と方法を活用し、専門分野の個別テーマについて深く学んでいきます。

2年生 領域演習（領域ゼミ）
考古・先史学、歴史学、民俗・人類学、社会・平和の４つの専門領域に分かれ、専門分野における学問体系の基本、調査・研究能力の基礎を習得します。

1年生 フレッシュマンセミナー（FS）
約２０人ずつの小クラス（ゼミ／セミナー）に分かれて、大学生として、読み、書き、調べ、発表し、議論する能力を養成します。履修の仕方や大学生活についても、ゼミ担当の先生がアドバイスします。

専任教員紹介

社会文化学科には 11 名の専任教員が所属し、それぞれの専門分野についての講義・ゼミを担当しています

考古・先史学

新里　貴之

【自己紹介】 南九州から南島の考古学が専門です。主に、文字のない時代の土器、墓、交易、社会組織などを研究しています。

沖縄を含む南島は小さな島々ですが、日本のなかでも一種独特な興味深い歴史を歩んできた地域であり、「日本とは何か」を知る上でも不可欠な地域です。その南島を、発掘調査という独自の手法を用いて、歴史の断片を自らの手で掘り出し、それらを系統立てて整理し、パズルのピースを埋めるように、過去を復元できた時の喜びは何にも代えがたいものです。

【担当科目】 考古学演習、考古学特講、南島先史学、他。

【ゼミ紹介】 考古・先史学ゼミでは、発掘調査の技術と資料整理作業、報告書作成、論文作成、研究成果の発表方法を学ぶことができます。学年ごとに段階的に専門性を身につけ、最終的に専門家になれるよう育成しています。

講義では琉球列島に展開した先史・原史文化を中心に学び、また、周辺地域との関係について考えます。発掘実習は考古・先史学ゼミの目玉であり、モノや痕跡という物証から過去の文化や行動様式、技術などを復元します。２～３年生は発掘調査、報告書作成という地道な協働作業を通して、上級生から様々なスキルを教わりながら、自発的で腰を据えた研究姿勢を学びます。野外で作業することを厭わない学生、お待ちしています！

社会文化学科のカリキュラムは、少人数によるゼミ教育を徹底し、入学初年度から実習、学びの総括となる卒業論文の執筆まで、専門の教員が細やかに支援し続けます。

歴史学〔前近代史〕

深澤　秋人

【自己紹介】 専門分野は、近世琉球の対外関係史と海域アジア史です。前者は、鹿児島や福州（福建省）でのヒト・モノ・情報など外交や貿易の最前線を明らかにすること、そして日本や中国との関係が琉球の国家や社会にとってどのような意味を持っていたのか考えることだと思っています。後者は、前近代の東アジア・東南アジア・北東アジアの海域の状況を意識しながら、アジアの歴史を考えることだと思います。そこには琉球と日本も含まれます。ところで、私は学部と大学院では日本古代史のゼミに所属していました。現在なぜこういうことになっているのかは機会を見つけてお話しします。

【担当科目】 沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ、古文書講読Ⅰ・Ⅱ、領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、他。

【ゼミ紹介】 歴史学（前近代史）ゼミでは、琉球王国が成立していた時期（成立前も）の国家や社会の状況を文字によって記された文献史料に基づきながら考えていきます。2年次（後期）では、我如古旧集落のフィールドワークや県内市町村史の文献史料集に接することによって地域の歴史を考える意味を考えます。3年次では、基本文献と関連史料を丹念に読み込みます。そして、4年次では、先行研究と史料を踏まえ、「ゆずれないテーマ」を設定して卒業論文にまとめあげます。

これらを苦しみながらでもやり遂げ、ものごとを歴史的に理解しようとすることは、生きていく自信と力になると信じています。

歴史学〔近現代史〕

藤波　潔

【自己紹介】 私は歴史学の中でも、イギリスの近代外交史を専門としています。とくに、イギリスがアジアという地域をどのように考え、どういった関係を構築しようとしていたのかについて関心があります。これからは、沖縄の近現代の歴史を、沖縄の外から眺めてみようと思っています。また、学内では教職課程も担当しており、学校教育における歴史教育のあるべき姿についても考えています。

学生と触れ合うことが大好きで、ハンドボール部、吹奏楽部、SmiLife の顧問を務めています。メリハリ！と「日に日に新たに」がモットーです。

【担当科目】 歴史学概論、世界の歴史Ⅰ・Ⅱ、他。

【ゼミ紹介】 私が担当しているのは歴史学ゼミのうち、沖縄の近現代史を対象とするゼミです。具体的には琉球処分以降の歴史を扱っています。

ゼミでは、沖縄の近現代史に関する基本的な知識を習得するために、基本書と呼ばれる文献の報告会を実施します。また、歴史学は史料に基づいて研究を行いますので、ゼミでは史料の収集、読解、翻刻（現代の人が読みやすいように活字化すること）の技術を習得するように訓練します。

歴史学（近現代史）ゼミは、ゼミ生同士、先輩と後輩が率直に語り合える関係の中で、メリハリの効いたゼミ活動をおこなっています。

民俗学

阿利　よし乃

【自己紹介】　私は「民俗学」を専門としています。民俗学とは、現在の私たちの暮らしがどのように形成されたのかを歴史の変化のなかで捉える学問です。歴史といっても、文字で書き残されたものだけを対象とするのではなく、田んぼや畑での農作業や夏に行われる綱引き、エイサーなどの年中行事も研究の対象です。人びとの暮らしの日常すべてが民俗学の研究テーマになるのです。例えば私はこれまで、沖縄で御嶽とよばれる聖なる場所でお祈りをしているツカサという女性たちがどうしてその役割を担っているのか、沖縄のお墓の引っ越しはどのように行われているのかなどを調べてきました。

このような研究の基礎はフィールドワークを基本としています。地域の人々のお話を聞き、ときには祭りに参加することで、沖縄の暮らしをめぐる日常や生活文化を捉えることができます。講義やゼミではその具体的な方法や考え方を取り上げています。

【担当科目】　沖縄文化入門、民俗学概論、南島民俗学史Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、領域演習、民俗学ゼミ

【ゼミ紹介】　民俗学はさまざまな人々の生きるための方法を民俗誌を通じて具体的に描いてきました。他者の生き方を知ることは、自己の生き方を省みることにつながります。民俗学ゼミではその調査の基本を学び、実践します。

3 年次では沖縄の一村落を調査地に設定し、ゼミ生の興味を基にグループ調査を行います。そしてその成果を報告書にまとめます。4 年次では 3 年次での経験を基に個人で卒業論文作成に取り組みます。卒業論文では、ゆいレール開通による地域の変化やハーリーなどの年中行事、子どもの遊びやタウチー（闘鶏）といった趣味や娯楽、稲作農家の変化など幅広いテーマに取り組んでいます。

人類学

石垣　直

【自己紹介】　私は「人類学（文化人類学）」を専門としています。この学問の特徴は、長期のフィールドワーク（現地調査）を基礎としながら、世界各地の諸事例をもとに、人類社会・文化の多様性と共通性を考えることにあります。私の場合は、沖縄と台湾（特に南島系の先住民）を調査してきました。

本学には、沖縄関連の科目が数多くありますが、皆さんには私の授業を通じて、アジアや世界各地の社会・文化を学ぶと同時に、「アジアのなかの沖縄」、「世界のなかの沖縄」について理解を深めてほしいと考えています。「アジアの時代」が叫ばれる今、アジアへの玄関口である沖縄で文化人類学を学び、ぜひ「沖縄を知り、アジアを知る人材」を目指してください。

【担当科目】　沖縄文化入門、文化人類学概論、文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ、琉球アジア文化論、領域演習、人類学ゼミ。

【ゼミ紹介】　人類学ゼミの目標は、「フィールドワークを通じて沖縄を理解し、アジア／世界的な視点で沖縄を捉えなおす」ことにあります。ゼミでは、文化人類学の諸トピックや理論を取り上げ、また沖縄や台湾の文化についても「比較」という視点を重視して紹介しています。本ゼミではこれまで、沖縄各地でのフィールドワークをもとに報告書『みんぞく』を作成してきました。また、これまで数回にわたって台湾での海外研修も実施し、「周辺地域と比較して沖縄を理解する」ことの重要性を学生に体験してもらいました。人類学のテーマは極めて多様であり、本ゼミの学生たちはこれまで卒業論文で、人生儀礼、門中、御嶽、ハーリー、染織物、空手、旗頭、三線、観光、世界遺産、教育問題、米軍基地、平和教育、言語復興、日本／中国の文化・気質差など、様々なテーマに取り組んで来ました。

社会学

崎濱　佳代

【自己紹介】 専門分野は国際社会学で、特に国内にいる南米系日系人と、彼らを取り巻く社会関係について研究をしています。着任して 1 年目（2019 年現在）となる本学では、社会学、沖縄社会における女性・家族、子ども、開発・発展、地域社会、移民・ウチナーンチュ・ネットワークに関連する講義とゼミを担当する予定です。講義にはワークショップや学生による発表、コメントなどを取り入れながら、家庭や地域といった身の周りの社会システムや社会問題について日常的視点と学術的視点の両方から捉え、学生自身の考察を深めることを目指します。受講を通して、授業内容について主体的に考える練習をし、社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に、社会学の知見を参照しながら答えを見つける経験を提供していきたいと思っています。

【担当科目】 沖縄社会入門、演習Ⅰ・Ⅱ（社会学、領域演習）、ジェンダー論。

【ゼミ紹介】 グローバル化が進む現代社会。人種・民族、階級・階層、国籍や世代などのさまざまな境界を越えて共生していかなくてはならない時代になりつつあります。文化や価値観の違い、立場の違い、ライフスタイルの違いといった差異を否定しあうのではなく、いかに他者と繋がり、包摂していくのか。現代社会が直面する様々な課題について、社会の多文化化を捉える国際社会学の観点に立ち考察しています。文献を読んでプレゼンし議論することに加え、実際の社会調査も経験しながら現場での学びを深めていきます。特に 3 年ゼミでは共通するテーマを設定し、全員で行う社会調査のデータをもとに報告書も作成します。このような課程を通して、社会の出来事を実証的に考察し、表現するための技能を身につけ、身の回りの社会問題や社会システムに対して能動的に働きかけていく市民としての自覚と知性を育んでゆきましょう。

平和学

秋山　道宏

【自己紹介】 戦後から現代にかけての沖縄社会のあり様について、平和学と社会学の視点から研究しています。特に注目しているのは、戦後、多くの沖縄の人々が戦争体験を抱えながら、米国の占領下で軍事基地とどのように向き合い、暮らし、生き抜いてきたのかという歴史と実践です。現在も続くこの軍事基地の問題を考えるとき、歴史的な人々の営為（営み）に目を向けることで、問題の本質や矛盾の焦点を理解することができ、また、今後の沖縄社会のあり方だけでなく、戦争・紛争や対立を抱える世界の問題へとつながり、より普遍的でグローバルな課題の解決に向けた可能性も見いだせると考えています。

【担当科目】 沖縄社会入門、平和学概論、社会学理論、領域演習、演習Ⅰ・Ⅱ（平和学ゼミ）、他。

【ゼミ紹介】 平和学ゼミ～「平和」について学び、深める

現在、沖縄は「平和」でしょうか？そもそも「平和」とは、どのような状態でしょうか。平和学ゼミでは、この素朴ですが、根本的で切実な「問い」にこだわりながら、沖縄戦や身近に存在する米軍基地の歴史、沖縄・日本・東アジアの戦後史などを学び、理解を深めながら様々なアプローチから考えていきます。また、「平和」を考えていく際には、座学だけでなくフィールド（現場）に出ることも大切なものとなるため、沖縄戦や戦後を生き抜いてきた人々の経験について聞き取り調査も行います。

「平和ってなんだろう？」と考えている、現代社会に対して疑問を持っている、積極的に外に出てフィールド（現場）から考えてみたい、といった学生さんにオススメのゼミです。

歴史学
日本近現代史・医療社会史
教職科目

市川　智生

【自己紹介】　みなさんの先祖はどんな状態を健康だと考え、どんな病気にかかり、何歳で亡くなったのでしょうか。わたしは、文字で残された情報や聞き取りを材料に、健康、医療、病気を通して日本の歴史を研究しています。このテーマは、マラリアやフィラリアなど多くの感染症を克服し、かつては長寿県と呼ばれていた沖縄にも縁が深いものです。講義では、実際の史料をみて皆さんに考えてもらう日本史を実践しています。自分が暮らす地域、国の歴史について、一緒に理解を深めましょう。

【担当科目】　日本史、日本史概論Ⅰ・Ⅱ、日本の歴史Ⅰ・Ⅱ、人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ
フレッシュマンセミナー、他。

考古・先史学
博物館学芸員課程

宮城　弘樹

【自己紹介】　考古学や博物館の授業を主に担当しています。地下に埋もれた歴史を発掘するとともに、多くの博物館の展示では、歴史資料の一番はじめに考古資料が並んでいます。数万年前にやってきた私たちの祖先はいったいどんな人たちだったのか？　数千年前の沖縄にどんな暮らしがあったのか？琉球のグスクを発掘するとどんな物が出土するのか？　沖縄の遺跡は謎が多く、掘れば掘るほど新しい発見がいっぱいです。単なる知識だけではなく、幅広く、奥深い経験と科学的な「モノ」の見方の習得を目指し、考古資料にたくさん触れながら学びます。好奇心あふれ、情熱ある学生を歓迎します。

【担当科目】　沖縄の考古学、博物館資料論、フレッシュマンセミナー、他。

人類学
環境学

比嘉　理麻

【自己紹介】　沖縄の人にとって、なくてはならない〈食べ物〉豚肉。その豚肉がどのような工程を経て、食卓にならぶか、みなさんは具体的に想像できますか？

一昔前の沖縄では、豚は自分たちで育てて屠る身近な動物でした。しかし、この 30 年余りで、沖縄の人と豚の関係は目まぐるしく変わり、かつての豚のいた生活が「遠い過去」になっています。これは単に、人と豚との間だけに起きた変化ではなく、私たち消費者が圧倒的な数と力をもつ社会の誕生、産業化の帰結として考える必要があります。私は沖縄の人と豚の関係について研究してきました。身近な「食べる」という行為から、社会・自然の問題について共に考えましょう。講義実習で、農業体験、自然体験に出かけています！

【担当科目】　外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ、フレッシュマン・セミナー、他。

社会学
沖縄移民研究・スペイン語

月野　楓子

【自己紹介】　沖縄は歴史的に多くの移民を送出してきました。私は南米の沖縄移民社会について研究をしていますが、主に担当している授業はスペイン語です。沖縄とスペイン語、一見すると関係のないようにも見えますが、南米に移民したウチナーンチュが暮らす国の多くはスペイン語が公用語であるため、沖縄にとっては身近な外国語でもあります。スペイン語は 20 以上の国と地域で話されており、沖国大にはスペインの協定校への留学プログラムも用意されています。沖縄を拠点に、言葉を通して世界への理解を深めていきましょう。

【担当科目】　スペイン語、外国語研究、フレッシュマンセミナー。

キャリア教育・就職支援

本学科ではキャリア教育や就職支援にも力を入れています。「インターンシップ」では、希望する学生が在学中に、企業の実務の場でインターン経験を積むことができます。また、インターン終了後は「インターンシップ報告会」を開催しております。

他にも、学科独自のプログラムとして、就職活動に励んできた先輩から、就職活動経験を聴く「就職内定者と語る会」を開催しています。就職内定を受けた４年次がその就職活動の体験を３年生向けに語る会を通して、３年生が自らのキャリアについて考える機会とするために、４年次は自分が苦労した分を少しでも後輩に伝えることで後輩の就職活動の一助になり、４年生自身が社会に飛び立つ前のトレーニングを目的とした座談会です。

インターンシップ報告会の様子

就職内定者座談会の様子

卒業後の進路・就職先

社会文化学科の卒業生は、沖縄県内外の様々な業界で活躍しています。教員や学芸員等の専門職だけではなく、大学で培った問題解決能力とコミュニケーション能力は一般企業の現場でも生かされています。

また、社会文化学科では所定の科目を履修することで在学中に様々な資格を取得することができます。

社会文化学科修了者の主な進路選択

教員（高校・中学／地歴・公民・社会）
地方公務員、国家公務員、博物館学芸員、図書館司書
マスコミ、金融・保険業、印刷・出版業、観光業、ホテル・サービス業
国際機関職員、ＮＰＯ・ＮＧＯ職員、大学院進学、留学

社会文化学科で取得可能な資格

高等学校教諭一種免許（地理歴史／公民）
中学校教諭一種免許（社会）
博物館学芸員資格
図書館司書資格
社会調査士

2021 年度卒業生の主な就職先

[公務員・教員] 沖縄県教育委員会　人吉農芸学院　北大東村教育委員会

[卸・小売業] 株式会社ホクガン　三菱電機照明株式会社　琉球日産自動車株式会社　株式会社日進商会
大黒天物産株式会社　御菓子御殿　琉球ダイハツ販売株式会社

[サービス業] オリックス・ビジネスセンター沖縄株式会社　株式会社マーキュリー
株式会社りゅうせきフロントライン　日研トータルソーシング株式会社　株式会社メディビューティー

[情報処理関連サービス業] 沖縄ケーブルネットワーク株式会社　株式会社イー・コード　株式会社光貴
株式会社 MJE　株式会社沖縄電子

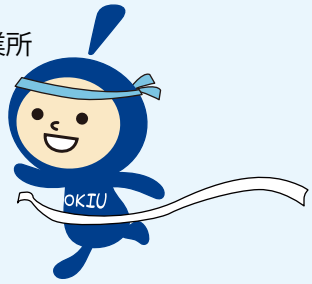
[宿泊業・飲食サービス業] 前田産業ホテルズ

[教育・学習支援業] STAR 進学塾　株式会社富士通ラーニングメディア沖縄

[医療・福祉] 沖縄県医師会　株式会社琉薬　有限会社佐野正福祉開発シルビアン介護事業所
株式会社ムサシエンジニヤリング　中部徳洲会病院

[建設業] タマキハウジング株式会社　株式会社 YKK AP 沖縄

[製造業] 沖縄ヤクルト株式会社



沖縄国際大学の詳細および社会文化学科については、
大学発行の『大学案内』などもあわせてご覧ください。

沖縄国際大学公式ウェブサイト
http://www.okiu.ac.jp

沖縄国際大学
社会文化学科Facebook（おきこく・しゃぶん）
https://www.facebook.com/okiushabun/

社会文化学科ウェブサイト
http://www.okiu.ac.jp/gakubu/sogobunka/syakai/

製作・発行　沖縄国際大学 総合文化学部 社会文化学科

住　　所　〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾２－６－１ 沖縄国際大学
電　　話　098（892）1111（代表）
発 行 日　2022年5月15日
印刷・製本　沖縄高速印刷株式会社